



妊娠期からの継続した支援に関する研究

助産学専攻科

助手 東 優美（あずま ひろみ）

連絡先 県立広島大学 三原キャンパス 4315 号室
Tel 0848-60-1120 （代表）
E-mail azumahiromi@pu-hiroshima.ac.jp

専門分野： 助産学

キーワード： 出産体験，パースプラン，パースレビュー，
親役割獲得，育児支援

● 主な取り組み・活動

これまで、広島県内の産婦人科有床診療所に助産師として勤務し、主に産科病棟業務に従事してきました。分娩介助を中心に、妊婦健診、両親学級、産褥ケア、新生児ケア、産後健診、乳児健診、母乳外来を通して、地域の母子とその家族に、妊娠中から産後の子育てに移行していく過程を継続して支援してきました。

助産業務の一環として、産後入院中の母親に対して、出産体験の聞き取りやアンケートも行ってきました。母親たちの中には出産に対して、パースプランを立てたり、自ら分娩方法を選択したいと考え、「自分で産む」という主体性を持った妊婦がいる一方で、「医師や助産師に任せる」という受動的な妊婦も多いように感じています。

出産を主体的に捉えていた母親は、分娩の状況に関わらず、妊娠期の自らの取り組みを評価し、出産体験を肯定的に感じている傾向にあるという印象を持っています。また、育児に対しても、妊娠期から準備やイメージトレーニングができおり、新生児との生活を前向きにスムーズに受け入れられているように思います。

妊娠・分娩が正常な経過を逸脱しないよう、身体的なケアを行ってだけでなく、女性が妊娠・出産をとおして、母親となっていく過程や、新たな家族の誕生を支えていくことが助産師の役割であると考えています。

● 今後の目標・抱負

出産に臨む母親の意識と、産後の育児や精神の状態との関連を調査していくことで、妊娠期からの継続した親役割獲得を支えるケアができるようになるのではないかと考えています。

また、妊娠・出産・育児を継続して捉え、さらに、ライフステージの一環として考え、女性の生涯を通して支えていける助産師を育てていきたいと思っています。

● 地域・社会と連携して進めたい内容

親役割・家族機能獲得に向けた継続したケアが、どこでも誰でも受けられるよう母親や助産師を対象に広めていきたいと考えています。

● これまでの連携事例・実績

広島県看護協会の助産師職能委員に就任し、県内の助産師を対象とした研修会と、周産期の母子とその家族を対象としたイベントの企画・運営に携わってきました。